

2026年10月2日

Institution for a Global Society 株式会社

**保有データ 1.25 億件の非認知能力測定実績をもつ「Ai GROW」が、
子どもたちの卒業後の活躍を見据えた「学びと社会の接続」を支援
～IGS、特設ページを開設し、「仕事で求められる力」から逆算して学校の教育目標を
「測れる KPI」に具体化する視点を提供～**

Institution for a Global Society 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 COO：中里 忍、以下「IGS」）は、子どもたちの未来の可能性を広げる教育に取り組む全国の学校に向けて、非認知能力の可視化・育成を支援する測定ツール「Ai GROW（アイ・グロー）」の実践的な特設ページを公開しました。

▶特設ページはこちら：<https://blog.aigrow.jp/article/nexths20260918>

本特設ページは、ツールの単なる活用事例にとどまらず、「高校での学びが、社会に出てからの活躍（仕事で求められる力）にどうつながるのか」という視点にフォーカスしています。

文部科学省による「N-E.X.T.ハイスクール構想」の追加採択（2026年9月15日公表）が発表されるなど、高校教育改革が一段と加速するこの機会に、学校が掲げる教育目標に向けた過程を「仕事」から逆算し、どのように「測れる指標（KPI）」へと具体化していくか、その考え方や手順について提言します。



▲「Ai GROW」が子どもたちの卒業後の活躍を見据えた「学びと社会の接続」を支援

■ 課題提起：高校生の学びは、社会に出てからどう生きるのか —— 足りないのは目標に向かう「ものさし」

現在、全国の多くの学校が「〇〇人材の育成」や「主体的に学び続ける生徒の育成」といった到達目標（KGI）を掲げ、日々教育活動に尽力しています。

一方で、「そのために1年目・2年目で、何がどこまでできていればよいか」という中間指標（KPI）まで具体的に描けている学校は、まだ多くありません。とりわけ、主体性や協働性、粘り強さといった「非認知能力・ソフトスキル」の成長は、一般的な学力テストには直接表れないため、成果として説明することが難しい分野です。

高校での学びが、卒業後の進路や社会での活躍にどうつながっているのか。IGSは、「仕事で求められる力」から逆算して学校の目標を測れる形（KPI）に翻訳していくことが、これからの高校教育改革を進めるうえで欠かせない視点だと考えています。

■ 「成果の可視化」を支える「Ai GROW」の3つのアプローチ

IGSは、児童・生徒の非認知能力を測定するアセスメント「Ai GROW」を通じて、以下の3つの視点から、全国の学校教育現場における成果の可視化を後押しします。

1. 実証事業・行政への成果説明とKPI設定

予算を活用した実証事業などを推進する際、教育活動の効果をどのように客観的に説明するかが求められます。「Ai GROW」は、一般的な学力テストでは測りにくい「主体性」や「協働性」などのコンピテンシーを、生徒の自己評価とクラスメイトらによる他者評価（360度評価）に、独自アルゴリズムによるバイアス補正を加えて数値化します。これにより、「1年目でどこまで育てるか」といったKPIの進捗をデータで確かめることが可能になります。実証事業の鍵となる、客観的な成果の可視化および再現性の検証に寄与します。

2. 生徒・現場教職員に伴走する日々の学び

探究型学習やPBL（課題解決型学習）において、生徒自らが問いを立て協働するプロセスを多面的に捉えます。生徒一人ひとりの強みと成長を可視化することで、「どんな経験が成長につながったのか」を振り返り、次の学びへとつなげる材料を提供します。

3. N-E.X.T.ハイスクールの拠点校・協力校間、地域の企業・大学等との「共通言語化」

「Ai GROW」は、学校が独自に掲げる教育目標やスクール・ポリシーを、計測可能な25のコンピテンシーの組み合わせによって定量的に捉えます。これにより、N-E.X.T.ハイスクールの拠点校・協力校間、連携先の企業や大学、地域社会とも「どのような力を育てているのか」を同じ言葉（共通言語）で語り合うことが可能になります。

領域	コンピテンシー	定義
認知	課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を自ら考え出せる能力
	創造性	自分ならではの独自性に加え、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力
自己	個人的実行力	自らの意思によって行動を起こして計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力
	自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力
	決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力
他者	表現力	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えることのできる能力
	柔軟性	変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正することのできる能力
	外交性	たとえそこが未知の環境であったとしても、自ら進んでその環境に飛び込むことのできる能力
コミュニティ	組織への働きかけ	目標を達成するためにチームワークを高め、前向きな雰囲気を作り出すことのできる能力
	地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力

▲「Ai GROW」で定量化できるコンピテンシー・一部抜粋

■ 特設ページを公開 — 「求める人材像」を学校の KPI に変えるヒント

IGS は、こうした視点をより具体的に検討いただけるよう、特設ページ「学校は『仕事』に必要な力を言語化できているか？ — 求める人材像を、学校の KPI に変える」を公開しました。

仕事の現場で求められる力から逆算して学校の教育目標を KPI に落とし込んでいく手順などを詳しく紹介しています。

<IGS 代表取締役社長 COO 中里 忍のコメント>

AI の進展に伴い、仕事の内容や人の役割は変わり続けています。求められる力の変化も速く、企業も「これから何が必要か」を模索しています。だからこそ、学校と企業が対話を重ね、学びと社会のつながりを一緒に考えることが大切だと思います。

仕事で必要な力に目を向けると、日々の授業や課題研究が、社会のどこにつながるのかが見えてきます。そこで育まれる力は、進学後の学びや地域での活動、自分の人生を選ぶ場面でも生きるものです。

「どんな経験が成長につながったのか」「次は何に挑戦してみようか」

評価データを、先生方と生徒がこうした対話をする手掛かりにしていいただければと思います。

生徒一人ひとりが「できるようになった」と実感し、自分の可能性を広げ、未来を選び取っていきけるよう、先生方とともに支えていきたいと考えています。

■ 「Ai GROW」とは

IGS が開発・提供する、教育機関向けの非認知能力測定ツールです。特許取得の独自アルゴリズムによる評価バイアス除去で、より客観的な測定を実現。スマートフォン・タブレットで測定が可能です。

2026 年 8 月現在、全国 630 校に有償導入されており（累計）、令和 7 年度文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校 230 校のうち 65 校も含まれています。これまでに蓄積した児童・生徒の非認知能力評価データは、1.25 億件にのびります。

Ai GROW

▶ 非認知能力測定ツール「Ai GROW」について、詳しくはウェブサイトをご覧ください：

<https://www.aigrow.jp/>

▶ IGS では、「Ai GROW」が蓄積する大規模データをもとにした『非認知能力白書 2025 年度版』を 2026 年 3 月に発行しています。『非認知能力白書 2025 年度版』ダウンロードはこちらから（無料）：

<https://www.aigrow.jp/non-cognitive-abilities-whitepaper-2025>

■ 会社概要 Institution for a Global Society (IGS) 株式会社

社会で力を発揮するうえで重要な「非認知能力」を中心に、人の能力（コンピテンシー・スキル）や気質（変化しづらい特性）を可視化する評価サービスを提供する EdTech/HRTech 企業。企業・学校・自治体向けに、行動特性や強みを数値化し捉えるツールおよびサービスを提供し、個人と組織の成長と価値創

プレスリリース

出を支援しています。企業パーパスに「分断なき持続可能な社会を実現するための手段を提供する」、そしてビジョンとして「人を幸せにする評価と教育で、幸せを作る人、をつくる。」を掲げています。2010年5月の創業以来、国内外の多様な組織との協業を通じて、教育・人材領域の変革を推進し、2021年12月29日には東証マザーズ市場（現・グロース市場）へ上場しました。

- 事業内容：学校・企業向けに、非認知能力を含む人の能力・特性を可視化する評価プラットフォームの開発・提供
- 所在地：〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-11-2 4F
- 設立：2010年5月
- 代表者：代表取締役会長 CEO 福原 正大／代表取締役社長 COO 中里 忍
- 資本金：91 百万円（2026 年 9 月末現在）
- コーポレートサイト：<https://www.i-globalsociety.com/>

■ お問い合わせ

<「Ai GROW」による測定・研修等サービスに関するお問い合わせ先（学校・教育委員会等）>

Institution for a Global Society 株式会社 教育ソリューション部 矢部

MAIL：edsales@i-globalsociety.com

<ご取材に関するお問い合わせ先（メディア）>

Institution for a Global Society 株式会社 ブランドコミュニケーション室 広報担当 川村

MAIL：pr@i-globalsociety.com